

コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech.f.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		タデ科
選定理由	県内の分布地が極めて少なく、個体数も少ない。特に都市部では環境の悪化が認められる。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	多年草。高さ30－50cm。葉は長楕円形状被心形、基部は円形で縁はやや波形で無毛。翼状萼片は縁があり、中肋はこぶ状、長さは萼片の約2/3である。	
生態的特徴	路肩や畑地の縁などに散発的に見られることが多い。	
分布状況	本州の関東地方以西・四国九州に分布する。岐阜県では、美濃市・関市・高山市(旧国府町)に僅かに見られる。	
減少要因	生育地が人里に近く人為的な工事等によって攪乱されることが多い。	
保全対策	地味な植物であり一般に知られていない。産地を周知徹底させ、保全を図ることが重要である。	
特記事項		
参考文献		

文責:須賀瑛文